

地域少子化対策強化事業実施計画書（江府町）

市 町 村 名	江 府 町
事 業 名	江府町少子化対策強化事業
事業の趣旨・目的	結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージにおいて広く町民に施策等の情報提供を行い、また研修会・シンポジウム等を通して職場、家庭、地域全体で子育てをしやすい環境醸成に取り組む。
実 施 期 間	平成26年3月31日 ～ 平成27年3月31日
所 要 見 込 額	1,157,000 円
地域の実情と課題	江府町は、人口3,288人（平成26年1月1日現在）で少子高齢化が進展している。これ以上の少子高齢化の進展を食い止めていくためにも重点課題として定住・人口再生産を挙げている。また当町では関係法令に定められた子育て支援の各施策を展開してきたが、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援、特に結婚や子育て情報や施策の広報が十分ではなかった。
事 業 内 容	<p>1 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援を行うための仕組みの構築          県事業計画の以下の事業の実施にあたり、県と連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ シニア世代の孫育て事業</li> <li>○ 少子化対策理解促進啓発フォーラム（仮称）開催事業</li> </ul>
	<p>2 結婚に向けた情報提供等  <b>「奥大山縁結びの座談会」事業（636,720円）</b>          結婚に向けての情報提供は町が主体となって提供することが今までなく、大きな課題となっていた。そこで江府町の若者の状況や結婚の状況・課題を話し合い、必要な支援を考える。1回50名の参加規模で、2回開催</p> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の実施（結婚意識について）</li> <li>・結婚相談の専門家、奥大山縁結びの会、商工会、青年団、住民代表（若者世代、親世代、祖父母世代）によるトークショーの開催。江府町の結婚の今、若者の意識、これからの結婚支援を話し合う。</li> <li>・トークショーに引き続いて、相談コーナーの開設</li> </ul> <p>【先駆性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家と町民が同じ場で、同じ目線に立って結婚の課題を話し合うことに先駆性がある。</li> <li>・座談会を通じて、若者世代には「愛されパパママ育成講座」を、縁結び支援者には「子育て支援者研修会」を紹介し参加を促す。また会場に「子育て支援手帳」と「生活支援マップ」を準備する。これにより結婚の情報提供から、妊娠出産の正しい情報正しい知識を学び、子育て支援の体系を閲覧すること、子ども子育て会議でニーズを町の施策を伝えられることを広報する。</li> </ul> <p>以上の通りこの会を契機に切れ目ない少子化対策の施策に関する情報提供を受けること、江府町の少子化対策・子育て支援がトータルに俯瞰的視点で見ることができるという点で、先駆性がある。</p> <p>【所要額】          報償費（講師謝金）540,000円（=@270,000円×2回、講師から提示額から算出）          普通旅費（岡山）31,920円、印刷製本費 64,800円（見積済み金額）</p>
	<p>3 妊娠・出産に関する情報提供          県事業計画の以下の事業の実施にあたり、県と連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ とっとり若者研究会（仮称）事業</li> </ul>

4 結婚・妊娠・出産・育児をしやすい地域づくりに向けた環境整備  
**「愛されパパ・愛されママ育成講座」事業 (335,420円)**  
 情報・知識不足、地域職場の理解不足が子育て阻害要因ではないかという課題から、妊婦体験や研修会・当時者会を通じて出産妊娠への理解を深め、地域からも家庭からも愛されるパパ・ママになるために、必要な研修会を開催する。また、職場での理解を深めるために、町内各企業に協力を求める。1回100名の参加規模で、3回開催

**【実施方法】**  
 ・町内各企業に出席の協力を求める。企業のCSRとして管理者の理解を得る。  
 ・鳥取県助産師会に協力を要請し、妊婦体験や性教育を通じて妊娠出産への基礎知識を学ぶ。またパパとあかちゃんのふれあい講座等を開催し、結婚妊娠出産時のパパの不安を取り除くそして講座の中にいわゆる「マタハラ・パタハラ」についての学習と育休制度の順守や産休育休取得のノウハウを学ぶメニューを入れ、働きながら妊娠出産が進むよう企業とのかかわり方を勉強する。  
 ・研修会終了後プレママの会、プレパパの会を行い、当事者同士で、結婚や子育てについて語り合う会を開催する。

**【先駆性】**  
 ・企業にとって、一般の普及啓発の場所を提供すると同時に、その普及啓発に従業員の参加を促すことで、対外的活動（CSR）と社内啓発（WLB）を相乗的に進めるという点で先駆性がある。  
 ・ワークライフバランスを考える上で企業の協力が不可欠であるが、企業に踏み込めなかったという点は大きな課題であり、企業経営者が今回の育成講座を機にワークライフバランスを考えることで、子育てしやすい労働環境を考える意味において先駆性がある。  
 次年度以降は県の既存事業を紹介し活用を呼びかける。

**【所要額】**  
 委託料336,000円（見積済み金額）  
 （謝金216,000円（@36,000円×2名×3回）、旅費36,000円（@6,000円×2名×3回）  
 印刷製本費30,000円、消耗品費29,420円、通信運搬費24,000円）

**「子育て支援者研修会」～育ジイをもっと活用しよう～事業 (184,860円)**  
 江府町は町外通勤者が多く働く子育て世代にとっては、地域や家庭の協力が不可欠な状況となっている。とりわけ、祖父母の協力が必要となる。ただ、健診等で母親の悩みの中には子育ての方法を巡ってストレスをためたり、意見を言いづらくて支援を求めづらいという思いを抱えた人も少なくなかった。  
 上記の課題から現在の子育ての方法を体験することで、世代間のギャップを埋めて、子育ての支援がしやすい家庭内の環境を目指していくという目標を達成するため実施。1回50名の参加規模で、3回開催

**【実施方法】**  
 ・検診等でアンケートを実施し、母世代が「支援してほしいこと」を事前に調べる  
 ・事前学習会を開催し祖父母世代の考えや意見を集めて体験交流での視点を作る。  
 ・他市町村の子育て支援センターにバスツアーで訪問し、母子との交流を行う  
 ・フォローアップ講座を開催して、今後の支援の仕方を話し合う会を実施。  
 ・県の「シニア世代の孫育て講座」が座学中心であるのに対し、この事業は体験を中心とした事業であると区分けする。（なお、互いの事業の参加者が増えるように、互いの事業を紹介することとする。）

**【先駆性】**  
 ・子ども子育て会議に事業実施を報告し、同会議で家庭や地域での子育て意識を向上していく取り組みの実施の検討につなげる点で先駆性がある。  
 ・同居または町内に祖父母世代が住んでいることが多いという地域性から、家族内の子育て支援を促進する事業であり、県の座学と連動して事業実施することに先駆性がある。

**【所要額】**  
 需要費（燃料代 70L\*166円\*3=34,860円）町の規定による  
 報償費（訪問先謝金 90,000円=@30,000円×3回）、保険料（100人\*600円=60,000円）

**事業の効果** 結婚妊娠出産子育ての切れ目ない支援の紹介を大きく行うことで、転入や結婚数、出生数の増加、転出の食い止めなどの効果が期待される

**他の補助金の活用の有無** 無

**都道府県との連携方法** 県の事業計画にのっとり、県と足並みをそろえて事業実施する。  
 4など県の事業が次年度以降参入しやすいよう協力体制を構築する。